

the 6 th MACS コロキウム

11/8
[木]
2018
15:00 ~
理学部 6号館
南練 401 講義室

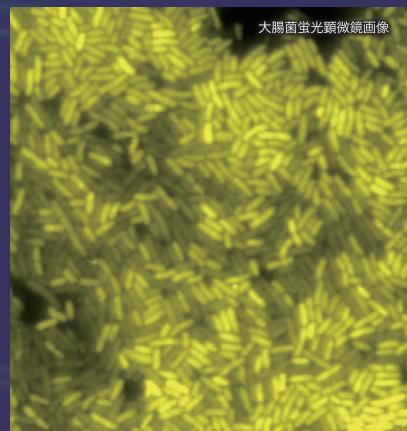
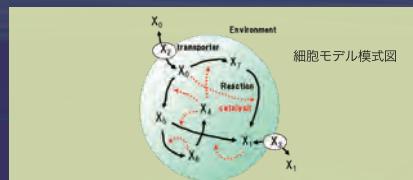


生物の状態変化をどのように記述すべきか：実験室進化と理論解析

古澤 力 氏

生物システムは、適応や進化といった現象に見られるように、環境変化に対して柔軟にその内部状態を変化させることができます。では、生物のような複雑なシステムが、どのようにして安定に内部状態を変化させることができるのでしょうか？その現象をどのように記述し理解すべきでしょうか？こうした問いに答るために、微生物をさまざまな条件下で培養し、そこで繰り広げられる適応進化のダイナミクスを調べています。理論解析と実験、そしてデータ解析を組み合わせることにより、細胞の状態遷移を理解することを目指していますが、今回の講演ではその現状と展望を議論したいと思います。

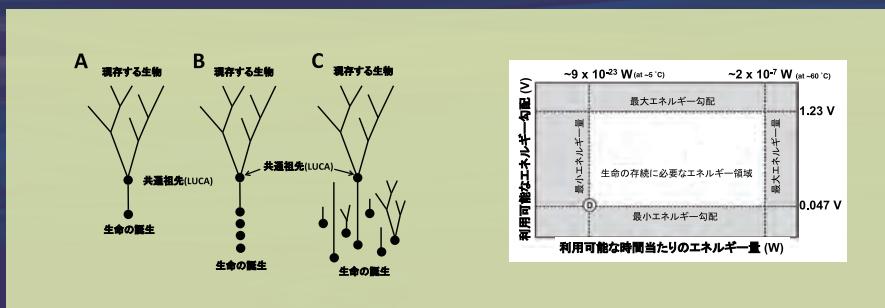
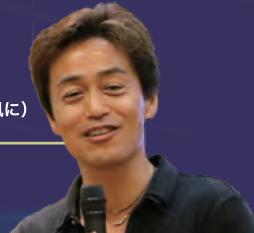
理化学研究所 生命システム研究センター 多階層生命動態研究チーム・チームリーダー
東京大学 理学系研究科 物理学専攻・教授



では、教えてくれ。生命の起源の'生命'とはなんのことだ。
'生命'が何かを知らずに、生命の起源を研究していると言うのか？（海原雄山風に）

高井 研 氏

海洋研究開発機構 深海・地殻内生物圏研究分野・分野長



私は割と真面目に、「生命の起源」を解明するためには、地球生物以外の生物を理解しないと無理シゴ！と思っています。それは「人類の起源」の解明に人間以外の生物との相対的な比較が必要なのと同じように、地球生物と地球外生命との比較によって初めて、「生命とは何か」とか「生命の起源」について的一般解と特殊解のような本質的な理解に辿り着くことができると思うからです。とは言うものの、地球の生命の研究からも、ある程度は本質的な理解に辿り着くこともできるかもしれません。皆さんとそのような議論をしてみたいと思います。

プログラム

15:00 ティータイム

15:15 古澤 力 氏 講演・質疑応答

16:30 高井 研 氏 講演・質疑応答

17:45 懇親会 *学生無料！教職員1,000円程度

- ◎ 理学部・理学研究科の学生・教職員が対象ですが、京都大学の方ならどなたでも聴講できます。申し込み不要。

◎ 問い合わせ先：macs@sci.kyoto-u.ac.jp



MACS 教育プログラム
数理を基盤として新分野の自発的創出を促す理学教育プログラム

macs 京大



理化学研究所 数理創造プログラム (iTHEMS) 協賛

